

北海道浮魚ニュース

平成 11 (1999) 年度 14 号 (通巻 No.60)

1999 年 9 月 3 日

北海道立中央水産試験場 Tel 0135-23-8707 Fax 0135-23-8709
 釧路水産試験場 Tel 0154-23-6221 Fax 0154-23-6225
 函館水産試験場 Tel 0138-57-5998 Fax 0138-57-5991
 稚内水産試験場 Tel 0162-32-7177 Fax 0162-32-7171
 網走水産試験場 Tel 0152-43-4591 Fax 0152-43-4593

道央～道北日本海スルメイカ調査結果 (おやしお丸 :8月 24 日～ 9月 1日)

前年よりスルメイカの分布密度低く 魚体は小型

スルメイカの分布密度と大きさ

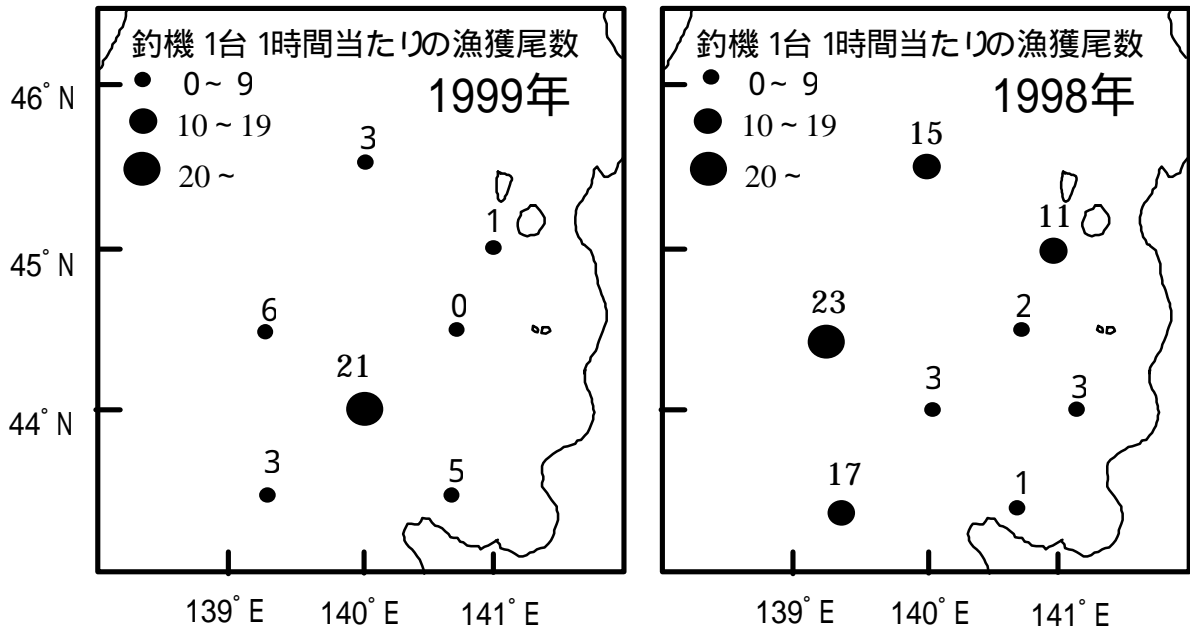


図 1 スルメイカの分布密度 (CPUE :自動イカ釣機 1台 1時間当たりの漁獲尾数)

スルメイカの分布密度 (CPUE :自動イカ釣機 1台 1時間当たりの漁獲尾数)は積丹半島の北西沖合で 21 と高かったが、その他の調査点では 6以下と低くなっていました (図 1)。例年分布密度が高い日口境界線付近の分布密度も 3～ 6と低くなっていました。

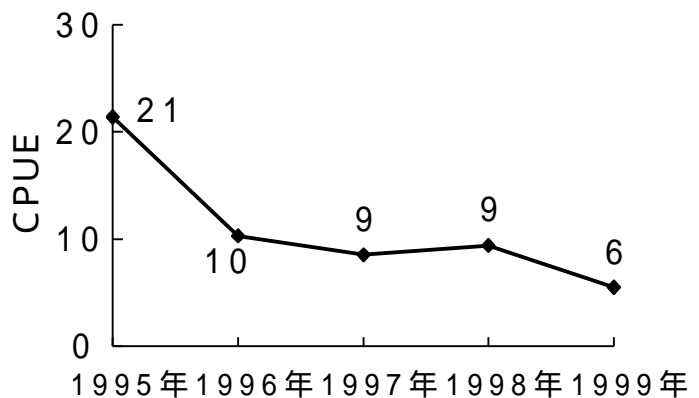


図 2 平均 CPUE の経年変化

全調査点の平均 CPUE は6で前年 (9)より低く、1995 年以降で最も低い値でした (図 2)。

スルメイカの外套長は 16 ~ 29cm、調査海域全体のモード(最も多く漁獲されたイカの外套長)は 22cm で、前年より小型でした (図 3)。

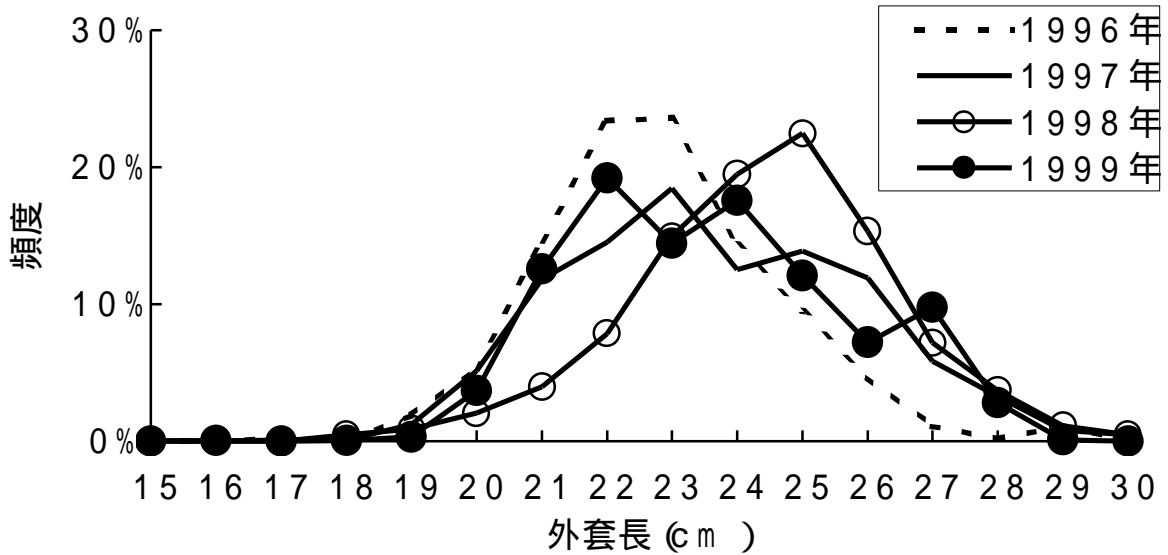


図 3 調査海域全体での外套長組成

水温分布
調査海域の 50m 深水温分布は 2 ~ 15 台でした (図 4)。

積丹半島の北から西方沖合や利尻島から天売・焼尻島周辺海域で 14 ~ 15 台と高くなっていました。また、日口境界線付近の沖合は前年並みの水温でした。

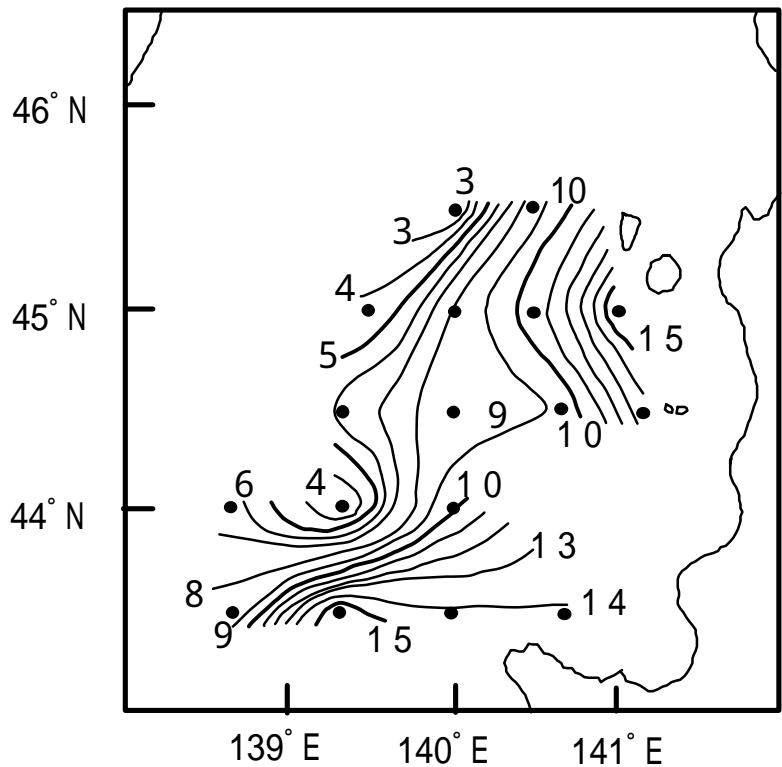


図 4 1999 年の 8 月下旬の 50m 深水温分布 (文責: 中央水試資源管理部)